

一 般 質 問 通 告 事 項

(令和6年第4回白岡市議会定例会)

第1 通告者

7 番 石 渡 征 浩 議員

1 令和7年度の予算編成方針とは

(1) 歳入について、以下2点を問う。

ア 見通し及びその根拠を問う。

イ 市税や国庫支出金、起債だけに頼らない歳入拡大策の想定はあるか。

(2) 歳出予算の編成に当たり、基本的な考え方を問う。

ア 各部に示す方針、一部財源の各部への配分の基準、事務事業の廃止・縮小の基準、予算編成時の考慮点とは何か。

イ 令和6年度予算編成方針から進化させた点は何か。

ウ 第6次総合振興計画の重点取組項目と日常的な市民からの要望への対応のバランスを取ることについての見解を問う。

(3) 行財政改革の成果について問う。

ア 成果の算出基準は、明確になったか。

イ 令和3年度から5年度までの各年度の成果は（昨年公表の数字と比較）。

ウ 市としての自助努力・工夫の成果を明確にするために、市独自の取組成果（純成果）とDXの推進のような国策による成果（準成果）は、切り分けて別枠で集計するべきでは。

エ 令和7年度に新たに取り組むこと及びその成果額の見通しは。

オ 行財政改革の次なる段階に向けた施策を検討する想定はあるか。

(4) 決算情報は予算編成に活かされているかを問う。

ア 多くの時間と労力をかけて作成する決算統計を予算編成にどう活かしているか。

イ 個々の事務事業について、単なる集計に留まらない、成果と課題についての踏み込んだ総括が必要ではないか。

ウ 事業の拡大・縮小・廃止に裁量の余地のある事務事業について

は、1年のタイムラグ解消のため、期中で総括したらどうか。

2 ベルク白岡上野田店を核テナントとしたミニショッピングセンター化を

(1) ベルクとドラッグストアは同時オープンの方がインパクトが強いが、どのようなになっているか。

(2) ベルクを核テナントとしたミニショッピングセンター化を図る必要があると令和4年12月議会定例会で提言した。

ア その後、事業者及び地権者への働きかけは行っているか。

イ 誘致する業種・業態の想定はあるか。

ウ ベルク側に伝えてあるか。また、その反応は。

第2通告者

14番 遠藤 誠 議員

1 ワーク、ライフ&ケア

(1) 「ケア」をキーワードに、例えばヤングケアラーなど人と人との接触について根本的考察が必要ではないか。

(2) ヤングケアラーへの理解は、いまだ職員など関係者レベルでとどまっている。理解は市民レベルでという目標は必要ではないか。

2 社会を支える力はどこにあるのか。

(1) 社会福祉協議会やシルバー人材センターの仕事は、現場に足しげく通うフットワークが求められるものではないか。

(2) 緩やかな人の集まる場、サロンが大切で、それを運営するのは誰なのか。

(3) 自主防災組織の高齢化など共助は望めないのではないか。

3 イチゴノオカ白岡、梨の里白岡はどうか。

(1) 2つの駅名を、イチゴノオカ白岡、梨の里白岡に、今から計画したらいかがか。

(2) 企業の支店もイチゴノオカ白岡支店をお勧めしたらどうか。

第3通告者

6番 野々口 眞由美 議員

1 高齢者福祉のこれから

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活をするためには、様々な対応が必要であるが、中でも総合的な相談や支援を受けられる地域包括支援センターと自宅で介護が受けられる訪問介護は重要だと考える。そこで本市における取組について伺う。

(1) 地域包括支援センターについて

ア 現状をどう捉えているか。

イ 地域包括支援センター運営協議会の役割と実施状況は。

ウ 今後の取組について

(ア) 支援センターの増設にあたり、必要な条件は。

(イ) 出張型の相談会等の実施は。

(2) 訪問介護について

ア 訪問介護事業者のニーズや状況をどのような方法で把握しているのか。さらに当市における現在の問題はなにか。

イ 介護難民を生まない為に、訪問介護事業所の維持及び新規参入を促す施策を。

2 歳入歳出外現金について

歳入歳出外現金とは、予算に含まれない特定の取引や一時的な預かり金であり、歳入歳出とは別に管理されている現金である。よって、不透明になりがちのため、正確で適切な管理が求められる。歳入歳出外現金である契約保証金について、令和5年度前期の地域クラブ活動推進事業における保証金未納問題から、本市における管理体制について伺う。

(1) 地域クラブ活動推進事業において、なぜ未納が発生したのか。

(2) 契約は納入があつて、締結するものか。

(3) 契約保証金の未納に対し、令和6年3月議会一般質問では、事務処理上のミスであるとの答弁であった。教育長の見解を伺う。

(4) 歳入歳出外現金の管理体制は。

(5) 正確で適正な管理をするための今後の取組は。

第4 通告者

3 番 細 井 藤 夫 議員

1 水道水の安全性は

- (1) 水道水の水質検査について、本市ではどのように実施されているか。また、検査結果について伺う。
- (2) 本市において水道水のP F A S（有機フッ素化合物）の検査は実施されているか。また、実施されている場合、検査結果はいかがか。
- (3) 水道水の検査結果について、P F A Sなどの水質管理目標項目についても、公開をしてはどうか。

2 市民が安心できる避難所指定を

- (1) 避難所における「公助」の対応範囲はどの程度か。
- (2) 改めて指定避難所を周知すべきと考えるがいかがか。
- (3) 「防災ハザードマップ」については、常に最新の情報を提供できるように努めるべきと考えるがいかがか。

3 すべての動物を大切に

- (1) 市内における犬猫の飼育頭数とマイクロチップ装着頭数はどの程度か。
- (2) 犬猫を含め、どんなペットでも「大事な家族」として迎える以上、終生を共に過ごして欲しい。行政として出来ることはないか。
- (3) 災害時の「ペット同行避難」について、犬猫以外を含め「大事な家族」と避難することを配慮すべきと考えるが、いかがか。

第5 通告者

1 番 尾 嶋 一 雄 議員

1 災害発生時の情報伝達ツールの運用について

- (1) 災害時の防災行政無線の活用内容と停電時等、防災行政無線が使用できない場合、市はどのような対策を想定しているか伺う。
- (2) 災害発生時に防災行政無線以外で準備している情報伝達ツールはあるか。
- (3) 高齢者など情報収集が困難な世帯に対する情報伝達ツールとして戸別受信機の無償貸与の制度があるが、その内容及び利用状況について伺う。

2 罹災・被災証明書について

- (1) 罹災・被災証明書の発行で罹災者が受けられる公的支援の具体的内容を伺う。
- (2) 罹災・被災証明書の発行のための手続き及び想定される発行までの期間を伺う。
- (3) 罹災・被災証明書を発行するための被害状況の調査は誰がどの様に行う予定か、また、他の自治体等との協力体制の構築はされているか。

3 学校教育における主権者教育の取組について

- (1) 主権者教育の必要性について市の見解を伺う。
- (2) 市内小・中学校での主権者教育の取組状況は。
- (3) 今後、新たに取組を予定しているものはあるか。
- (4) 千葉県酒々井町で実施している「こども模擬選挙」「こども模擬議会」の取組を行うことは出来ないか。

第6 通告者

1 3 番 菱 沼 あゆ美 議員

1 高齢者の施策について

- (1) 要介護認定の認定者数の状況はどうか。介護度は軽くなる方向が望ましい。市の介護予防などの取組の成果はどのような状況か。
- (2) 要介護認定の申請では、どのような状態になったら申請をすべきなのか目安が分かりにくい。また、申請や相談をする窓口がどこなのか、市のホームページなどからは情報が得にくい。市民に分かりやすくする工夫が必要ではないか。
- (3) 高齢者の住居の確保が困難になることが、課題となっている。今後の取組は。
- (4) 高齢者のかかわる事業名や施設名などを統一できないか。老人福祉センターに愛称をつけてはいかがか。

2 命を守る避難所について

- (1) 発災後の指定避難所開設では、鍵の管理が課題となっている。避難所周辺の自主防災組織や行政区と暗証番号を共有することで、速

やかな開設が可能になるデジタルキーボックスを活用してはどうか。

(2) 開設直後は、ファーストミッションボックスのスムーズな活用が重要である。開設訓練などでは、どうしているか。

(3) エアコンのない体育館では猛暑や厳寒の時期には、災害関連死などの問題が発生しやすい。命を守る避難所を第一に考えて、小中学校のエアコンのある教室の活用を最大限可能にしておく必要があるのでは。また、学童保育所の活用も可能にすべきではないか。

3 道路・踏切の課題について

(1) 近隣の市町と接続する道路の状況を伺う。特に、混雑や事故の発生はどうか。

(2) 白岡駅入口交差点は、県道さいたま栗橋線と市道が交差している。市道は、白岡駅西口線と蓮田市境の八幡橋に向かう1-19号線であるが、道幅の差がかなり大きい。そのため事故の発生も多く、住民から道路拡幅の要望の声がある。対策が必要ではないか。

(3) 市内の踏切は何か所あるか。事故やトラブルは発生しているか。

(4) 白岡駅南側の二反五畝踏切をシルバーカーで横断する高齢者から、段差に危険や不安を感じているとの声がある。段差解消の対策が必要ではないか。

4 市が後援することについて

(1) 市が後援するのに相応しいとする条件は。

(2) 主催者と内容の審査は、どのようにしているのか。

(3) 申請内容と当日の内容のチェックは、しているか。

第7 通告者

5 番 和 賀 正 義 議員

1 高齢者福祉の現状と今後について

第9期介護保険事業計画が策定されたが、白岡市での介護サービスが適正・円滑に提供されるため、現状と今後について伺う。

(1) 介護認定審査会について伺う。

ア どのような方が審査会委員になるのか。資格の有無、年齢、人

数は。

イ 月に何回行われているのか。何件調査依頼があるのか。

ウ 認定審査の一次判定と二次判定では、要介護状態区分は変わるのか。

エ 過去5年間の市で働く調査員（会計年度任用職員を含む。）は何人か。また、委託業者との割合を伺う。

(2) 要介護認定を受けているが、介護サービス未利用者はどのくらいか。

(3) 介護支援専門員の認定調査委託料の単価見直しはどうか。

(4) 調査から認定までの期間はどれくらいか。

(5) 原則では30日となっているが、原因を把握しているのか。

(6) 高齢化が更に進むが、介護認定の期間短縮やスピードアップについて今後の対策の見解を伺う。

(7) 高齢介護課職員や会計年度任用職員の増員などを考えてみては。

2 のりあい交通について

(1) 公共交通の利用実態調査から、現在までの改善点と今後についての進捗は。

ア のりあい交通の運行時間延長や日曜日・祝祭日の利用など

イ のりあい交通のネット予約について

ウ キャッシュレス決済の導入について

エ 近隣市町と連携した運行の実施

(2) 一週間前からの予約では混雑する。病院は月単位で決まるが、月ごとの予約は可能なのか。

(3) のりあい交通では10人乗りなどの車を利用することは考えないのか。

(4) 企業のスポンサーなどを募り、コスト削減や運行エリア拡大はどうか。

(5) 「のりあい交通を利用したおかげで、地域の方とお友達になれた」を目標に、飲食店など集まる場所や、買い物のスポットにエリア拡大はどうか。

(6) 介護予防施設、地域包括支援センター、地域コミュニティ施設などへ、登録や予約の周知の連携を図ってみてはいかがか。

(7) のりあい交通を普及するため、説明会など実施してみてはいかがか。

第8 通告者

16 番 黒 須 大 一 郎 議 員

1 市民の安心安全見守りを問う

(1) 白岡市安全で安心なまちづくり推進条例には市の責務がうたわれている。そこには、「防犯の視点を取り入れた環境整備について必要な施策を実施するものとする」とある。何が実施されているのか。

(2) ここ10年間の市内の犯罪認知件数と近年の犯罪傾向はどう変化したか。

(3) 犯罪情勢を反映した形でいわゆる「体感治安」も悪化している状況が伺える。そのための対策は。

(4) 安心安全対策のために防犯カメラ設置を進めないのは、お金だけの問題なのか。

2 市道について

(1) 都市計画道路には、花壇（植栽）がある市道とない市道がある。なぜそうなったのか。

(2) 周辺住民に理解を求める必要はあるが、近未来を見据えて自転車（軽車両）専用道を空いたスペースに設置する道路整備が必要では。

3 ふるさと納税を考える

(1) 当市のふるさと納税返礼品人気ランキング（金額ベース）は。

(2) 返礼品はどのように新開発し、それは人気なのか、状況は。

(3) 白岡美人（特に幸水梨）は市民が地元で購入することがとても困難になっている。その状況を考えた返礼品開発等が必要では。

第9 通告者

9 番 斎 藤 信 治 議 員

1 農業振興地域整備計画を問う

農業振興地域整備計画を基に、未来に繋がる農業の方向を問う。

- (1) 農業生産基盤の整備開発計画は実現しているか。
- (2) 農用地等の保全計画による耕作放棄地の拡大は止まっているか。
特定農業法人制度および特定農業団体制度とは何か。この制度は機能しているのか。
- (3) 農業経営の規模の拡大及び農用地等の農業上の効率的かつ総合的な利用の促進計画による集落営農組織とは何か。組織化・法人化できたところはあるのか。また、白岡市地域農業再生協議会とは、どんな組織で、どれほどの実績があるのか。
- (4) 農業を担うべき者の育成・確保施設の整備計画でも集落営農組織について言及しているが、育成・確保はできたのか。
- (5) 白岡市内で完結する生命のための農業を目指さないか。愛知県豊田市押井町で行われている「まるっと方式」は検討の価値があると思われるが。

2 こどもの貧困解消に向けて

子どもの貧困対策推進法が、こどもの貧困解消対策推進法として今年6月19日に改正された。貧困にあえぐ子どもたちを支援し、貧困の輪から抜け出ることができるような施策を講じることが、地方自治体にも課されている。

- (1) こどもの貧困状態について市の現状を伺う。
- (2) 貧困解消に向けた施策の今までの実績を伺う。
- (3) 国や県の計画を待たずに市独自の貧困解消に向けた対策計画を策定しないか。
- (4) こどもの貧困は、家族の貧困であり、様々な困難を抱えていることが多い。今まで行ってきた各種の施策を一つのパッケージとして組み立て直してみたらいかがか。
- (5) 貧困状態にあるこどもを支援する民間団体活動に対して支援策を講ずることとしている。どのような支援ができるか。また、支援している個人や団体間で情報共有の仕組みを作れないか。

第 10 通告者

10 番 加 藤 一 生 議員

1 市の猛暑対策について

- (1) 今年 7・8 月における救急車による熱中症搬送者数は何人か。
- (2) 猛暑に対する、国・県の対策は。クーリングシェルター開設は何回あったか。
- (3) 来年に向けて、市としてどういう対策を考えているのか。

2 農業の産業化策について

8 月に、埼玉県知事が白岡市を名指しして「県をあげての梨の振興」を表明した。また、7 月には、イチゴノオカプロジェクトメディア発表会の席上において、藤井市長が「いちごの赤と、梨の白で、紅白のおめでたい農業の振興、産業化を図る」と表明している。

- (1) こういう状況の下、具体的には、梨産業をどうしていくのか。
- (2) 当市の農業の産業化をどう志向していくのか。

第 11 通告者

12 番 中 山 廣 子 議員

1 「マイナ保険証」の普及と利用促進などについて

- (1) 本市のマイナンバーカードの保有率と、マイナ保険証の保有率を伺う。
- (2) 本年 12 月 2 日より現行の健康保険証の発行は終了し、「マイナ保険証」を基本とする仕組みに移行する。厚労省より「マイナ保険証」の利用促進に向けたサポートメニューがたくさん発信されている。それらを活用しながら、12 月に向けての広報活動を強力に推進し、市民へ正しい情報発信に取り組んでいくべきと考えるが見解を伺う。
- (3) 本市における、「施設等に対するマイナンバーカードの取得支援」の取組状況を伺う。また、高齢者施設や高齢者世帯などに対して、このような支援がある事を周知し、希望する方が「マイナ保険証」を保有できるような取組を推進していくことが極めて重要であると考えるが、本市の取組について併せて伺う。

2 尊厳を守る終活支援について

- (1) 本市の 65 歳以上の単身世帯の人数と 75 歳以上の方のみでお住

いの人数の状況を伺う。

- (2) 「エンディングプランサポート事業」及び「終活情報登録伝達事業」の2つの終活支援事業の導入について伺う。
- (3) 誰もが安心して生きていき、亡くなった後も尊厳が守られる取組について市長の考えを伺う。

第12 通告者

15番 中川幸廣 議員

1 チーム担任制について

先の議会の一般質問で松本議員が「チーム担任制」について質問をなされた。その後の教育委員会の対応を伺う。

- (1) 再度伺う、チーム担任制のメリット・デメリットについて。
- (2) チーム担任制のメリットとして児童・生徒の相談相手が複数いる事で不登校が防止できると思うがどのように考えるか。
- (3) 市内の全小学校・中学校とは言わないまでも、モデル校を指定し、チーム担任制を導入する考えはないか。

2 白岡市こども計画について

次世代育成支援対策推進法は令和6年5月に改正され、令和17年3月末まで10年間延長されることになった。この法律に関して白岡市の対応について伺う。

- (1) 白岡市こども計画との関連。
- (2) 白岡市こども計画は児童福祉審議会で進めているようだが進捗状況はどうか。
- (3) 白岡市こども計画は市民にどのように知らせ、どのように市民の為に生かすのか。

第13 通告者

4番 浜口清志 議員

1 人事院勧告と白岡市職員の給与等の改善について

- (1) 2024年人事院勧告についてどのように捉え、それを白岡市職員の給与改定に反映させるのか。
- (2) 職員の時間外労働の令和4年度、令和5年度の時間数は延べ何時

間か。また、令和４年度、令和５年度ごとの月４５時間以上時間外労働の職員は何人いるか。（月ごとに）

- ２ （仮称）ベルク白岡上野田店開店に伴う周辺整備について
周辺の道路側溝の蓋掛けは十分されているか。（市道９４３３号線）

第１４通告者

２番 嶋 田 友一郎 議員

１ 子ども・子育て支援の充実について

- (1) 今年度７月の民間保育所の開所により、保育施設への入所待機児童は、どの程度減少したか。
- (2) 第２期子ども・子育て支援事業計画における保育施設に関する達成状況、及び第３期計画について伺う。
- (3) 今後の待機児童の解消対策、子ども・子育て支援の方針について市長に伺う。

２ 地域経済活性化のための企業誘致について

- (1) 東京電力パワーグリッド北東京変電所の立地利点を活かした、先端産業等の企業誘致とそれに伴う白岡駅東口から連続したまちづくりをしてはどうか。
- (2) ㈱サラダボウルによる土地改良に伴う開発事業について
ア これまでの経緯について、行政（市・県・国）はどのように関わってきたか。
イ 今後、市はどのように事業に関わっていくのか。
- (3) 市職員で構成する企業等誘致を目的とした組織を立ち上げてはどうか。

３ 体育館の空調設備の整備について

- (1) 市内体育館の空調設備の整備状況について伺う。
- (2) 熱中症対策として、市が保有する大型扇風機やスポットクーラーなどの簡易的空調設備を学校体育施設開放の際において体育館利用者に貸出しすることは可能か。また、貸出の方法や手続きはどのようなになるのか。

1 全国学力テストと G I G A スクール構想の現状について

文部科学省が、小学 6 年と中学 3 年を対象に国語と算数・数学で実施した全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）の結果を 7 月 29 日に公表した。国語と算数・数学のうち、中学の国語は平均正答率が 58.4%にとどまり、過去最低だった。「話す・聞く」「書く」「読む」の技能別では、「読む」の正答率が特に低く、記述式の成績も悪かった。

(1) さいたま市の中学 3 年の正答率は、国語が 61%、数学が 58%で、全国 20 の政令市の中で両教科とも 1 位、小学 6 年は、国語が 71%、算数が 67%で、政令市の中で両教科とも 2 位であった。県内の中学 3 年の正答率は国語が 59%、数学が 53%で、小学 6 年では国語が 69%、算数が 64%であったが、本市の各々の学年の正答率を伺う。

(2) 学力テストと同時に生活習慣や学習状況についてアンケート調査が実施され、小学生の 2 割、中学生の 3 割が 1 日 3 時間以上、SNS や動画視聴をしているとの回答を得た。学力テストとの関係では、SNS の利用時間を「30 分未満」と答えたグループは小中学校の全教科で最も成績が良く、「4 時間以上」は最も悪く、SNS を利用するほど成績が落ちている。本市の各々の学年の分析状況を伺う。

(3) 国が G I G A スクール構想を打ち出し、児童生徒に 1 人 1 台の学習用端末を配布した。端末を家に持ち帰り、動画の視聴やゲームに長時間費やしている問題が各地で報告されているが、本市の状況を伺う。

(4) 文部科学省は出題内容が毎年異なり、単純比較は適当でないとしているが、読書や作文の指導を通じて、読解力や文章作成力の向上を急ぐ必要がある。今回テストを受けた中学 3 年生は、小学校の高学年から専用の端末に親しんできた世代であり、今後の児童・生徒への指導方針を伺う。

2 危険な交差点対策について

(1) 宮代町から御成街道に向かう市道 1-18 号線と 2-6 号線の交

差点では、市道 1－18 号線の路面が大型車両の通行で、横断歩道上に直径 50 cm ほどの窪みができ、道路課職員が応急措置をしているが、自転車での通行も多く事故発生の危険性がある。宮代町からの路面にはひび割れも発生している。当該場所は水道管敷設工事を数年前に実施しており、事故発生の前に改良できないか、伺う。

- (2) 南中学校西側の市道と市道 2－1 号線の交差点は 4 方向の交差点だが、非常に変則である。南中学校西側から左折して千駄野橋を渡り、白岡駅方面に向かう際に、左側の私有地の雑草により千駄野橋から下ってくる車が見えない。また、カーブミラーも片面の右方向のみである。事故発生の前に道路沿いも含めて雑草の除去、及びカーブミラーの設置ができないか、伺う。